

「ICT機器を活用した学習環境づくりの取組」

熊本県立熊本かがやきの森支援学校

(1) はじめに

本校は、重度重複障がいのある児童生徒が通う肢体不自由特別支援学校です。重度重複障がいのある児童生徒にとっても、ICT機器を効果的に使うことによって、準備に時間をかけることなく場面や場所が変わっても同じ取組みができると考えました。持ち運びのしやすさや操作性の高さから、iPadを使った実践を、高等部に通う生徒との授業の中から紹介します。

(2) 実践内容 ～iPadとデジタルカメラを使った写真撮影の実践～

iPadとデジタルカメラを使った写真撮影の実践を紹介します。準備した物は、iPad、デジタルカメラ（Wi-Fi



「使用した教材」

「実際の撮影の様子」

i機能付き)、スイッチ、iPadタッチャー(スイッチインターフェイス)、フレキシブルアームです。iPadとデジタルカメラをWi-Fi機能で接続し、カメラの映像をiPadの画面で生徒と確認しながら写真を撮影しました。三脚を使ってカメラの位置や角度を変えながら、校舎内の風景、授業の一場面などいろいろな写真を撮影しました。撮影した作品は、写真展に応募したり、特別支援学校文化作品展に出品したりしました。

(3) 実践のまとめ

写真撮影中は、生徒が画面の変化を確認しながらシャッターを何度も押す様子が見られました。iPadを導入したことで、撮った写真をその場で生徒と確認し、振り返りをすみやかに行うことができました。また、持ち運びも容易にでき、校外での撮影にも適していました。写真展に応募した作品が、肢体不自由児デジタル写真展で「銅賞」、全国特別支援学校文化祭で「優秀賞」という2つの賞を受賞することができました。



全国特別支援学校文化祭優秀賞
「ひとやすみ～暗がりにて～」

この実践を通して、意思の表出や主体的な動きの少ない生徒がiPadと周辺機器を使用することにより、自分の思いを伝える作品として残すことができ、表現する可能性が広がると感じました。また、重度重複障がいのある児童生徒にとって、ICT機器の機能を活用することで、学習の幅がより広がることを実感しました。